

## CSRデータ集

- 96 日産CSRスコアカード
- 101 2010年度決算概況
- 102 パフォーマンスデータ
- 103 環境データ／人事データ(2010年度)

# 日産CSRスコアカード

「CSR ステアリング コミッティ」では、「CSRスコアカード」を管理ツールとして、「CSR重点8分野」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。  
ここでは、「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

[ 2010年度目標に対する達成度 ] ○◎達成 ○ほぼ達成 △未達成 — 未集計

| フォーカスアイテム  | 重点活動(価値)          | 適用範囲 | 進捗確認指標例                           | 2008年度 実績   | 2009年度 実績  | 2010年度 目標   | 2010年度 実績   | 2011年度 目標  | 長期ビジョン   |
|--|-------------------|------|-----------------------------------|---|--|---|---|--|--|
| <b>コーポレートガバナンス・内部統制</b><br><br>法令と会社のルールを順守し、公平・公正で高い透明性を持った効率的な事業活動を目指します | 内部統制システムの整備と適正な運用 | 連結会社 | 世界全地域のコンプライアンス組織の整備と行動規範の展開       | コンプライアンス違反未然防止活動の評価システムをグループグローバルに導入し、中長期のアクションプランを策定   | 内部通報制度を各リージョンに導入済み   | 未然防止の仕組み構築とPDCAサイクルによる改善活動の実施                               | ◎<br>・各リージョンで重点課題を明確化し、アクションプランを策定してコンプライアンス違反未然防止活動を推進<br>・グローバルでは、グローバル行動規範の社外開示を実施   | ・コンプライアンスリスクの可視化と重点管理の仕組み構築<br>・PDCAサイクル強化によるトラブル解決力、フォローアップの向上(各地域で2011~13年度中期計画を策定)  | グローバルにコンプライアンス違反未然防止の仕組み(プロセス)が機能している                                  |
|  | リスクマネジメント         |      | 効果的で適切なリスク管理体制を整備し、グローバルに展開       | ・耐震補強の実施、地震を想定した訓練の実施、主要商品・工程についてのBCP策定<br>・新型インフルエンザに備え、社員教育用パンフレットを作成・配布。対応マニュアルを作成し海外拠点にも配備。非常用機材備蓄<br>・社内イントラネットにリスク管理のHP立ち上げ | ・新型インフルエンザ発生に対応するとともに欠勤率の上昇に備えたBCPを策定<br>・経済危機によって新たに顕在化したリスクについて、全社的リスク管理の対象として責任者を任命し管理方法を検討、管理を強化 | ・リスクマネジメントのプロセスに関わるグローバルな連携を強化する<br>・リスクマネジメントに関わる情報開示を強化する | ◎<br>・リスクマネジメントの基本的なプロセスについて、米州および欧州の地域統括会社との共通化を進めるとともに、ルノーとの間で情報・意見の交換を実施<br>・リスクマネジメントの取り組みについて、アニュアルレポートおよびサステナビリティレポート上で紹介 | ・東日本大震災対応の振り返りの実施とBCPへの反映<br>・リスクマネジメント活動に係る情報開示の継続の実施および強化<br>・ルノーとのベンチマークの継続の実施および強化 | グローバルにリスク管理の仕組みが機能していることで企業価値の向上に貢献するとともに、適切な情報開示により外部からの適切な理解にも貢献している |
|  | 情報セキュリティ          |      | 個人情報保護への取り組み、および、より強固な情報セキュリティの構築 | ・日産自動車および販売会社各社の個人情報保護に対する主要強化策の完了<br>・情報セキュリティポリシーの展開と主要関係会社でのマネジメント強化活動開始   | ・日産自動車および販売会社各社の個人情報保護策順守状況の継続的なモニタリングと改善実施<br>・主要関係会社の情報セキュリティマネジメントの年度計画策定とPDCAサイクル実施              | 情報セキュリティマネジメントの維持・向上  | ◎<br>・日産自動車および販売会社各社の個人情報保護策順守状況を継続してモニタリングし、レベルの維持・向上を確認<br>・情報セキュリティマネジメントの年度計画、進捗確認をグローバルで実施し、レベルの維持・向上を確認                   | 情報セキュリティマネジメントの維持・向上   | 情報セキュリティに関するPDCAサイクルがグローバルに実施され、社会的責務を果たすとともに、安定した企業活動の遂行に寄与する         |

[ 2010年度目標に対する達成度 ] ◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成 — 未集計

| フォーカスアイテム   | 重点活動(価値)                            | 適用範囲  | 進捗確認指標例   | 2008年度 実績  | 2009年度 実績  | 2010年度 目標  | 2010年度 実績                                | 2011年度 目標            | 長期ビジョン  |
|---|-------------------------------------|---|---|--|--|--|--|----------------------|---|
| <b>経済的貢献</b><br><br>持続的な利益ある成長を目指します。そして社会全体の経済的発展にも貢献します | 業績改善に集中するために、中期経営計画「日産GT 2012」を一時中断 | 連結会社  | 連結売上高(億円)   | 8兆4,370億円  | フリーキャッシュフロープラス(3,755億円)<br>リカバリープランを継続実施   | 8兆2,000億円  | ◎ 8兆7,731億円                              | 9兆4,000億円            | 持続的な利益ある成長を果たす。そして、お客さま、株主、社員、ビジネスパートナー、地域社会といったあらゆるステークホルダーに、長期的な価値を提供し続ける |
|   |                                     |   | 株式配当(円/株)   | 11円/株  | 0円/株   | 10円/株  | ◎ 10円/株                                  | 20円/株                |   |
| <b>品質</b><br><br>世界中でトップレベルの製品やサービスをお客さまにお届けします           | 最もお客さまに影響のある外部指標のスコア                | グローバル   | 【北米】Consumer Report   | 2008年度目標を達成  | 2009年度目標をほぼ達成  | 該当する指標においてさらなる向上を目指す   | ○ 2010年度目標をほぼ達成                          | 該当する指標においてさらなる向上を目指す | 商品、サービス、ブランドおよびマネジメントの質を向上することで、品質領域においてトップレベルを目指す                          |
|   |                                     |   | 【欧州】<br>英国：What Car?<br>ドイツ：ADAC<br>イタリア：Quattroruote       | イタリア<br>Quattroruote：「キャシユカイ」が高評価を獲得し、トップ3にランクイン                                     | 英国What Car?：「キャシユカイ」「ノート」が高評価<br>イタリア<br>Quattroruote：「キャシユカイ」が高評価<br>ドイツADAC：「キャシユカイ」「ノート」で高い信頼性評価を獲得 | ○ 英国What Car?：「キャシユカイ」「ノート」が高評価<br>イタリア<br>Quattroruote：「キャシユカイ」が高評価<br>ドイツADAC：「キャシユカイ」「ノート」で高い信頼性評価を獲得 |  |                      |   |
|   |                                     |   | 【その他の海外地域】中国：J.D.パワー/IQS<br>南アフリカ：PSI<br>ブラジル：Quatro Rodas  | 中国J.D.パワー/IQS：「ティアナ」：2年連続1位(Upper Premium Midsize Segment)<br>「ディーダ」：2位<br>「リヴィナ」：3位 | 中国J.D.パワー/IQS：4モデルがトップ3にランクイン<br>南アフリカPSI：4モデルがトップにランクイン   | ○ 中国J.D.パワー/IQS：3モデルがトップ3にランクイン  |  |                      |   |
| セールス・サービス品質の向上による、お客さま再購入率と再入庫率を向上                        | グローバル                               | 主要国のセールス・サービス品質を測るお客さま満足度調査結果(NISSAN/インフィニティ両ブランドが対象) | すでにトップレベルを達成している国はそれを維持。新たにカナダが主要競合メーカー間でトップレベルのセールス品質を達成した | すでにトップグループ入りしている国はトップグループを維持。それ以外の主要国も改善活動の立案および展開を推進しながら、トップグループ入りに向けて順位を上げてきている    | 主要国でのトップレベル品質実現を目指し、セールス・サービス品質を継続的に向上する   | ○ トップレベル品質実現に向けて計画通り改善をしている  | 主要国でのトップレベル品質実現を目指し、セールス・サービス品質を継続的に向上する |                      |   |

[ 2010年度目標に対する達成度 ] ◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成 — 未集計

| フォーカスアイテム  | 重点活動(価値)                            | 適用範囲                      | 進捗確認指標例           | 2008年度 実績                              | 2009年度 実績                                | 2010年度 実績                       | 2010年度 目標 (NGP2010)   | 長期ビジョン   |  |
|--|-------------------------------------|---------------------------|-------------------|--|--|---------------------------------|---|--|--|
| <b>環境</b><br><br>持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、クルマのライフサイクルにおける環境依存・負荷を低減し、実効性のある商品・技術を拡大することで、社会の変革をリードしてまいります | ニッサン・グリーンプログラム 2010 (NGP2010)の実行・推進 | CO <sub>2</sub> 排出量の削減    | グローバル             | CO <sub>2</sub> 排出量削減を実現する商品の投入        | 「エクストレイル 20GT」(日本)、E100対応「リヴィーナ」(ブラジル)発売 | 「Nissan ECOシリーズ」(日本)発売          | ◎ 電気自動車「日産リーフ」(日・米・欧)、「フーガ」(日本)「インフィニティ M」(米・欧)にハイブリッド車投入など | CO <sub>2</sub> 排出量削減に向けた燃費向上、クリーンエネルギー車の開発と普及推進 | 日産の企業活動と日産車の使用過程から生じる環境負荷と資源利用を自然が吸収可能なレベルに抑える |
|  |                                     |                           | グローバル             | 全生産工場でのCO <sub>2</sub> 排出量を削減(2005年度比) | 10%削減                                    | 10%削減                           | ◎ 18.6%削減   | 7%削減(グローバル台当たりCO <sub>2</sub> 排出量、2005年度比)       |  |
|  |                                     | エミッションのクリーン化(大気・水・土壌の保全)  | 日産自動車(株)          | 生産工場塗装VOC排出量を削減(2005年度比)               | 1.0%増加                                   | 13%削減                           | ◎ 17.1%削減   | 10%削減(2005年度比、ボディ+バンパー)                          |  |
|  |                                     | 資源循環(リデュース、リユース、リサイクルの推進) | 日産自動車(株)および連結製造会社 | 再資源化率                                  | 日産の国内5工場と1事業所および連結製造会社3社で100%達成          | 日産の国内5工場と1事業所および連結製造会社5社で100%達成 | ◎ 日産の国内5工場と2事業所および連結製造会社5社で100%達成                           | 再資源化率100%  |  |
|  |                                     | 日本                        | リサイクル実効率          | 95.7%達成                                | 96.6%達成                                  | ◎ 97.0%達成                       | リサイクル実効率95%達成(2015年度規制を5年前倒し)                               |  |  |

※NGP2010取り組み状況の詳細については17～18ページをご覧ください。

[ 2010年度目標に対する達成度 ] ◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成 — 未集計

| フォーカスアイテム   | 重点活動(価値)   | 適用範囲             | 進捗確認指標例  | 2008年度 実績                          | 2009年度 実績                        | 2010年度 目標   | 2010年度 実績         | 2011年度 目標   | 長期ビジョン                                 |
|---|--|------------------|--|------------------------------------|----------------------------------|---|-------------------|---|--|
| <b>安全</b><br><br>技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにまいります | 日産車がかかわる交通事故死者数などの定量的低減目標値を設定し、リアルワールドでの事故分析をもとに、安全なクルマづくりと安全啓発活動の実施 | 日本、米国、欧州、その他主要地域 | 日産車がかかわる交通事故における死亡・重傷者数の1995年比低減率<br><br>公共データをもとに算出するため、実績の把握は当該年度の約1年後 | 日本：49.6%減少<br>米国：42%減少<br>英国：57%減少 | 日本：53%減少<br>米国：48%減少<br>英国：56%減少 | 死亡・重傷者数ゼロに向け、日産の安全技術の考え方「セーフティ・シールド」に基づき、さらなる安全装備の開発および普及拡大に取り組むことで、前年度より死亡・重傷者数を削減する | (データが公表され次第、集計予定) | 死亡・重傷者数ゼロに向け、日産の安全技術の考え方「セーフティ・シールド」に基づき、さらなる安全装備の開発および普及拡大に取り組むことで、前年度より死亡・重傷者数を削減する | 究極の目標として、日産車がかかわる交通事故における死亡・重傷者数ゼロを目指す |

[ 2010年度目標に対する達成度 ] ◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成 — 未集計

| フォーカスアイテム   | 重点活動(価値)                         | 適用範囲     | 進捗確認指標例  | 2008年度 実績  | 2009年度 実績                                 | 2010年度 目標   | 2010年度 実績  | 2011年度 目標   | 長期ビジョン                                |
|---|----------------------------------|----------|--|--|---|---|--|---|---------------------------------------|
| <b>社員</b><br>多様な人材がグローバルビジネスを通して自らの成長を実感できる、魅力的な組織づくりを目指します | 学習する企業文化の醸成                      | 日産自動車(株) | 教育受講者満足度<br>年1回の教育受講者に対するアンケート。スコアは各教育における平均スコアのうちの最低のもの(5点満点)   | 4.2以上  | 4.5以上                                     | 社員一人ひとりの能力向上につながる教育の実施。教育受講者満足度の維持・向上   | ◎ 4.5  | 社員一人ひとりの能力向上につながる教育の実施。教育受講者満足度の維持・向上   | 学習する企業文化を醸成し、社員一人ひとりが自らの成長を実感できる組織の実現 |
|   | 社員意識調査を踏まえたマネジメントの質およびモチベーションの向上 | グローバル    | Quality of ManagementおよびEmployee Motivationのスコア<br>社員意識調査における設問の肯定回答率  | Quality of Management : 46%<br>Employee Motivation : 54% | 2009年度は未実施                                | 社員意識調査結果を反映した、経営の質の向上、および企業文化変革への取り組み推進。Quality of ManagementおよびEmployee Motivationのスコア向上 | ◎ Quality of Management : 50%<br>Employee Motivation : 57%   | 社員意識調査結果を反映した、経営の質の向上、および企業文化変革への取り組み推進。Quality of ManagementおよびEmployee Motivationのスコア向上 | マネジメントの質を向上させ、社員の意欲を引き出し、向上させる組織の実現   |
|   | 自律的キャリア開発サポート                    | 日産自動車(株) | オープンエントリー制度とシフトキャリア制度の合格者数<br>オープンエントリー制度：ポストの募集があれば自ら自由に応募できる制度<br>シフトキャリア制度：ポストの募集有無に関係なく、自ら自由に希望する部署や職種に応募できる制度 | 83名<br>(オープンエントリー制度+シフトキャリア制度)                           | 94名<br>(オープンエントリー制度+シフトキャリア制度)            | オープンエントリー制度とシフトキャリア制度などを通じた適材適所の人財配置の一層の推進  | ◎ 103名<br>(オープンエントリー制度+シフトキャリア制度)                            | オープンエントリー制度とシフトキャリア制度などを通じた適材適所の人財配置の一層の推進  | 社員一人ひとりの自主性を重んじたキャリア形成の支援             |
|   | 安心して働ける安全な職場を目指して                | 日産自動車(株) | 労働災害全度数率<br>(全度数率=全災害件数÷延べ労働時間×100万)   | 度数率0.19+重大災害ゼロ   | 0.37                                      | 0.20  | △ 0.43   | 0.27  | 安心して働ける安全な職場の構築と維持                    |
|   |                                  |          | 労働災害強度率<br>(強度率=全労働損失日数÷延べ労働時間×1,000)  | 0.003  | 0   | 重大災害ゼロ  | ◎ 0  | 重大災害ゼロ  |                                       |
|   | 女性の能力活用を通じたダイバーシティの推進            | グローバル    | 女性管理職比率  | 日本(日産自動車(株)) : 5%<br>北米 : 10%<br>欧州 : 12%                | 日本(日産自動車(株)) : 5%<br>北米 : 10%<br>欧州 : 13% | 女性管理職比率の維持・向上   | ◎ 日本(日産自動車(株)) : 6%<br>北米 : 12%<br>欧州 : 14%<br>その他海外地域 : 11% | 日本(日産自動車(株)) : 6%<br>北米 : 13%<br>欧州 : 15%<br>その他海外地域 : 12%                                | 多様性によるお客さまへのより大きな価値を提供                |
|   |                                  |          | 従業員サーベイのダイバーシティに関するスコア   | グローバル 46%  | 未実施                                       | スコアの維持・向上   | ◎ グローバル 50%  | スコアの維持・向上   |                                       |
|   | クロスカルチャーを通じたダイバーシティの推進           | 日産自動車(株) | 外国籍社員比率  | 1%   | 1%  | 外国籍社員比率の維持・向上   | ◎ 1.0%(2010年4月時点)  | 外国籍社員比率の維持・向上   |                                       |

[ 2010年度目標に対する達成度 ] ○◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成 — 未集計

| フォーカスアイテム   | 重点活動(価値)                              | 適用範囲   | 進捗確認指標例   | 2008年度 実績   | 2009年度 実績   | 2010年度 目標  | 2010年度 実績   | 2011年度 目標  | 長期ビジョン   |
|---|---------------------------------------|--|---|---|---|--|---|--|--|
| <b>バリューチェーン</b><br><br>サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で環境に配慮した行動がなされるよう促進していきます         | ルノー・日産が尊重するバリュー、法令、規範の順守をサプライヤーに展開し共有 | ルノー・日産共同購買会社*の世界中の全1次取引先サプライヤー<br><br>* ルノー・日産共同購買会社：ルノーと日産の年間合計購買額の100%を扱う(2009年4月時点) | サプライヤーと共有する価値観・規範の展開プロセスおよび浸透度合い                            | ・「日産GT 2012」に関するサプライヤーズミーティングを開催(2008年5月)<br>・2009年度販売・生産計画に関するサプライヤーズミーティングを開催(2009年3月、5月)<br>・厳しい環境変化に対応した情報をサプライヤーとタイムリーに共有するため、生産計画説明会を月次開催 | 日本自動車工業会のCSR調達活動に合わせ、ルノーと共同で「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を作成、展開準備   | ・ルノーと共同で、海外拠点購買から「ルノー・日産 サプライヤーCSRガイドライン」をサプライヤーに展開<br>・コンプライアンス順守と違反時の対応を織り込んだMPAの改定を開始 | ◎ ・ルノーと共同で、「サプライヤーCSRガイドライン」を各拠点の購買部門からサプライヤーに展開(6月～)<br>・コンプライアンス順守と違反時の対応を織り込んだ改訂版MPAを展開(7月～) | サプライヤーミーティング等で、映像などを活用し日産のCSR活動を継続して紹介することにより、サプライヤーへのCSRの啓蒙と普及を図る                                       | 継続してサプライヤーでのCSR活動体制強化のサポートを行っていく   |
|   | グリーン調達活動を通じた、製品の環境負荷低減を推進             | 世界中の全1次取引先サプライヤー   | 日本でのグリーン調達基準に基づく納入部品の環境負荷物質把握活動の完了と、グローバルグリーン調達基準に基づく同活動の推進 | 「日産・グリーン調達ガイドライン」の欧州での展開を開始   | 「日産・グリーン調達ガイドライン」のタイでのサプライヤー説明会を実施  | 「日産・グリーン調達ガイドライン」の北米地域での展開を開始  | ◎ 「日産・グリーン調達ガイドライン」をグローバルにウェブサイト上で公開。北米地域での展開を開始  | 環境負荷物質低減活動の改善をサプライヤーへ説明  | ライフサイクルを通して日産車の環境負荷が低減されるように、サプライヤーでの環境負荷が低減していく仕組みを構築する。製品に限らずバリューチェーン全体への拡大を目指してマネジメントの範囲を拡大する |
|   | 販売会社におけるCSR活動の推進                      | 販売会社(日本)   | 販売会社との価値観共有と、自主取り組み支援                                       | 2008年11月：総務・人事担当部署長説明会において展開  | コンプライアンス自己点検プログラムを各販売会社で実施。2009年9月と2010年3月の販売会社エグゼクティブミーティングで最近のコンプライアンス動向に関する情報共有を行い、各販売会社の取り組み推進を支援 | 実効性の向上を目的とした自己点検プログラムのコンテンツ改定を実施し、販売会社における活用の定着を図る                                       | ◎ 全社的にコンプライアンス自己点検プログラムの活用定着に取り組んだ結果、コンプライアンスに対する意識が一層向上  | 引き続き、自己点検プログラム定着を図るとともに、代表者会議などで定期的な情報発信を行う  | 販売会社の自主的な取り組み定着に向けた支援  |
| <b>社会貢献</b><br><br>「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」の3つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組めます | 日産の社会貢献活動方針の明文化、社内運営体制の整備および活動内容の充実   | グローバル  | 日産の社会貢献活動方針、推進体制、社内各機能の役割の構築                                | 日産初となるグローバル環境プログラム「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」を開始。2008年4月ロンドン、10月米国ニュージャージーで展示を開始。グローバルに一貫性のあるメッセージ発信に成功  | グローバルプログラムの検討を継続中、ただし2009年度は未実施。「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」は主催者側の都合により2009年6月で中断                               | グローバルに一貫性のある活動として、社会的ニーズに対応する社会貢献プログラムを検討、一部実行にも着手する                                     | ○ 2010年3月よりインドネシア、タイにて「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」との協働プロジェクトに着手  | ・3極体制(ASIA, AMIE, Americas)を確実なものとし、マネジメントを強化する<br>・新しい貧困層向けプログラムを開発する<br>・社会貢献分野としてステークホルダーとの対話を年2回実施する | 「教育への支援」「環境」「人道支援」の分野を中心に、グローバルな考え方や各地域に最適な活動のバランスをとりながら、日産らしい社会貢献プログラムを継続的に実施していく               |

## 2010年度 決算概況

2010年度通期の連結決算は、売上高が8兆7,731億円、営業利益が5,375億円、当期純利益は3,192億円となりました。自動車事業のフリーキャッシュフローは4,593億円で、自動車事業実質有利子負債を完済し、年度末には2,933億円のキャッシュポジションとなりました。

2010年度のグローバル販売台数は過去最高を更新しました。前年度の351万5,000台から418万5,000台と19.1%拡大し、日産のグローバルシェアは5.8%となりました。中国の販売台数は前年比35.5%増の102万4,000台に達しました。米国の販売台数は同17.3%増の96万6,000台となり、市場占有率は8%と過去最高となりました。メキシコでは販売を20.2%伸ばし、市場占有率は業界トップの23.1%に達しました。欧州の販売台数は前年比19.3%増の60万7,000台で、市場占有率は3.3%に上昇しました。その他市場の販売台数は、中南米が前年比65.7%増の16万9,000台、ロシアが前年比ほぼ倍増の10万2,500台、タイは同87.6%増の6万4,900台に達しました。また、インドネシアでは同65.4%増の4万2,600台、中東は微増の18万台となりました。

2011年3月に発生した東日本大震災以降、日産の復旧活動は順調かつ着実に進んでいます。日産は世界各地で長期的な利益ある成長に向けた態勢を整えています。

### 2010年度 財務実績 (億円)

|        | 2009年度 | 2010年度 | 差異     |
|--------|--------|--------|--------|
| 連結売上高  | 75,173 | 87,731 | 12,558 |
| 連結営業利益 | 3,116  | 5,375  | 2,259  |
| 営業外損益  | -1,039 | 3      | —      |
| 経常利益   | 2,077  | 5,378  | 3,301  |
| 特別損益   | -661   | -577   | —      |
| 当期純利益  | 424    | 3,192  | 2,768  |
| 設備投資   | 2,736  | 3,120  | —      |
| 研究開発費  | 3,855  | 3,993  | —      |
| 減価償却費  | 3,633  | 3,721  | —      |

2010年度 為替レート 1USDドル=85.7円、1ユーロ=113.1円

## パフォーマンスデータ

|               | 2008年度   | 2009年度                             | 2010年度   |
|---------------|--|------------------------------------|--|
| 連結従業員数        | 175,766人   | 169,298人                           | 155,099人   |
| 個人株主数         | 317,000人   | 273,000人                           | 264,940人   |
| 法人税等の支払額      | 902億円  | -265億円                             | 1,407億円  |
| 研究開発費(売上高比率)  | 4,555億円(5.4%)  | 3,855億円(5.1%)                      | 3,993億円(4.6%)  |
| 設備投資額(売上高比率)  | 3,836億円(4.5%)  | 2,736億円(3.6%)                      | 3,120億円(3.6%)  |
| 災害支援時の会社からの支出 | 3,000万円<br>(日産自動車(株)単独：<br>中国・四川省大地震他)                                 | 1,200万円<br>(日産自動車(株)単独：<br>チリ大地震他) | 4億3,000万円以上<br>(日産自動車(株)、北米日産会社、<br>欧州日産自動車株式会社などを含む：<br>東日本大震災) |
|               | 50,000豪ドル(約300万円)、<br>最大6ヵ月間の無償カーリース100台<br>(豪州日産自動車(株)：<br>豪州の大規模山火事) | 117,000ドル<br>(北米日産会社：<br>ハイチ大地震他)  | 約680万円<br>(日産(中国)投資有限公司：<br>青海省大震災)                              |
|               | キャシュカイ10台<br>(東風汽车有限公司(中国)：<br>中国・四川省大地震)                              |                                    | 10万ドル(約850万円)<br>(北米日産会社：<br>ハイチ大地震)                             |
| 日産自動車(株) 従業員数 | 30,718人  | 30,277人                            | 28,403人  |
| 平均年齢          | 41.8歳  | 41.8歳                              | 42.4歳  |
| 平均勤続年数        | 19.9年  | 20.1年                              | 20.7年  |
| 平均年間給与*       | 7,280,776円   | 6,271,632円                         | 6,847,796円   |
| 障がい者雇用率       | 約2.1%  | 約2.1%                              | 2.0%   |
| 育児休業取得者数      | 111人   | 161人                               | 195人   |
| 介護休業取得者数      | 4人   | 9人                                 | 15人  |
| 組合員総数         | 27,822人  | 27,271人                            | 26,790人  |

\* 平均年間給与は部長を除く一般従業員。賞および基準外賞金を含む

## 地域別連結従業員数 (2011年3月末現在)

|         |          |
|---------|----------|
| 日本      | 72,876人  |
| 北米      | 23,411人  |
| 欧州      | 13,891人  |
| アジア     | 42,718人  |
| その他海外地域 | 2,203人   |
| 連結従業員数* | 155,099人 |

\* 臨時従業員数(27,816人)を含む

## 労働組合の状況

日産自動車(株)の従業員は日産自動車労働組合に加入し、同組合は全日産一般業種労働組合連合会を上部団体とし、全日本自動車産業労働組合総連合会を通じ、日本労働組合総連合会に加盟しています。労使関係は安定しており、2011年3月末現在の組合員総数は26,790人。

なお、日本国内のグループ各社においては大半の企業で会社別労働組合が存在し、全日産一般業種労働組合連合会を上部団体としています。

また、海外のグループ各社では、メキシコにおいてはメキシコ労働者総同盟を上部団体とする労働組合および独立系の労働組合、英国においてはユナイテッド・ユニオン英国日産自動車製造支部など、各国の労働環境に即した労働組合が存在します。

## グローバル拠点 (2011年6月現在)

## 研究開発拠点：

12カ国・地域(日本、米国、英国、台湾、中国、タイ、インド、南アフリカ、メキシコ、ブラジル、スペイン、ベトナム)

## デザイン拠点：

4カ国(日本、米国、英国、中国に計5カ所)

## 車両生産工場：

20カ国・地域(日本、米国、英国、スペイン、台湾、中国、タイ、フィリピン、マレーシア、インドネシア、メキシコ、ブラジル、イラン、南アフリカ、ケニア、エジプト、パキスタン、ロシア、ベトナム、インド)

## 車種別販売台数 (トップ5)

日本 (台)

| 車名   | 2010年度<br>(2010/4-2011/3) |
|------|---------------------------|
| セレナ  | 71,510                    |
| ノート  | 55,629                    |
| マーチ  | 51,880                    |
| キューブ | 43,473                    |
| ティーダ | 36,213                    |



セレナ

米国 (台)

| 車名                 | 2010年度<br>(2010/4-2011/3) |
|--------------------|---------------------------|
| アルティマ              | 239,331                   |
| ローグ                | 114,518                   |
| セントラ               | 110,049                   |
| ヴァーサ(日本名：ティーダ)     | 98,706                    |
| インフィニティ G(セダン+クーペ) | 61,578                    |



アルティマ

欧州 (台)

| 車名       | 2010年度<br>(2010/4-2011/3) |
|----------|---------------------------|
| キャシュカイ   | 198,823                   |
| ジューク     | 51,797                    |
| キャシュカイ+2 | 50,234                    |
| ノート      | 49,652                    |
| マイクラ     | 49,276                    |



キャシュカイ



## 環境データ (2011年3月31日現在)

|                     |                                  |                           |
|---------------------|----------------------------------|---------------------------|
| エネルギー使用量*           |                                  |                           |
| 直接                  |                                  | 15,568(1,000GJ)           |
| 間接                  |                                  | 16,769(1,000GJ)           |
| 水使用量*               |                                  | 25,851,000km <sup>3</sup> |
| CO <sub>2</sub> 排出量 |                                  |                           |
| 生産                  |                                  | 2,486kton                 |
| 物流                  |                                  | 1,586kton                 |
| オフィス・販売店            |                                  | 381kton                   |
| 製品使用時               |                                  | 90,000kton                |
| 排水量*                |                                  | 19,784,000km <sup>3</sup> |
| 廃棄物                 |                                  |                           |
| 環境負荷削減指標            | 生産工場グローバル台当たりCO <sub>2</sub> 削減率 | 18.6%(2005年比)             |
|                     | 生産工場塗装VOC削減率                     | 17.1%(2005年比)             |
|                     | 再資源化率(日本)                        | 100%                      |
|                     | リサイクル実効率                         | 97%                       |
| 認証その他               | ISO14001 認証取得率(グローバル)            | 100%                      |
|                     | ISO9001 認証取得率(グローバル)             | 100%                      |

\* 対象はグローバル日産グループ(連結会社など71社)

## 人事データ (2011年3月31日現在)

|      |          |   |
|------|----------|---|
| 取締役  | 取締役人数    | 9人  |
|      | 代表者数     | 2人  |
|      | 女性役員     | 0人  |
|      | 社外取締役    | 1人  |
| 監査役  | 人数       | 4人  |
|      | 社外監査役    | 3人  |
| 株主   | 株式数      | 4,520,715千株   |
|      | 株主総数     | 267,600   |
|      | 特定株比率    | 61.3%   |
|      | 浮動株比率    | 4.6%  |
|      | 所有者状況    | 政府・地方公共団体：0.0%<br>金融機関：18.02%<br>金融商品取引業者：1.01%<br>他法人：1.86%<br>外国法人等：69.59%<br>個人他：9.52% |
|      | 障がい者雇用   | 実人数   |
|      | 雇用率      | 2.0%  |
| 従業員  | 従業員数(単独) | 28,403人   |
|      | 従業員数(連結) | 155,099人  |
|      | 臨時雇用者数   | 27,816人   |
|      | 平均年齢     | 42.4歳   |
|      | 平均勤続年数   | 20.7年   |
| 新卒採用 | 大卒(男性)   | —   |
|      | 大卒(女性)   | —   |
| 女性登用 | 管理職      | 6%  |
|      | うち部長以上   | 3%  |
|      | 役員       | 2%  |
| 労働災害 | 度数率      | 0.43  |